而して BCG を以てする結核アレルギーの「反射」は教室の仲村及び路次に依つて詳細に報告されて居るので私の実験では施行しなかつた。

第2項 標本作製法

操作終了後 Müller 氏液を固定液として生体固定を施行し、直ちに脳及び脳膜を除去する事なく出来る限り内淋巴嚢に損傷を與えぬ様に注意して取出し、次に Müller 氏液で後固定し、5% 硝酸フォルマリン液で脱灰、5% 硫酸曹達で中和後水洗し、脱水して後ち型の如く、2%・3%・4%・6%・8% ツェロイジンで包埋し蝸牛殻骨軸に平行に 8~15 μ の連続切片を作製した。染色はヘマトキシリン・エオジン二重染色法を行い腔内細胞については鉄反応を行った。

第3項 病変惹起法

1) 結核アレルギー

惹起法としては前記の食塩水菌浮游液を、感作群としては試験の体重毎 2mg を腹部皮下に接種した。而して之等は 1 週・2 週・3 週及び 4 週間を経過した後に標本作製した。

再感作群としては 1 回接種終了後 3 週間を経て同量を腹部皮下に接種し、1 週・10 日・2 週・3 週及び 4 週間を経過した動物につき標本作製した。

2) 卵白アレルギー

惹起法としては前記の 10 倍卵白生理的食塩水溶液を動物体重毎 1.0cc の割で腹部皮下に注射し

て感作を施し、更に 2 週間後 1.0cc を腹腔内に注射した。而して再注射後 3 日・1 週・2 週・3 週及び 4 週間を経過した動物を「反射」検査後、生体固定を行い標本作製した。

3) 撒曹中毒

之には前記の撒曹 20% 蒸餾水溶液を動物体重毎 1.0cc 即ち撒曹約 0.2g を毎日腹部皮下に注射したのであるが、3 回注射群と 6 回注射群とを作り、夫々生体固定を行い標本作製した。

4) ヘノボジ油中毒

之には前述の 10 倍オレフ油 エムルジョンを動物体重毎 0.1g (ヘノボジ油体重毎 0.01g) を隔日に腹部皮下に注射し、2 回・4 回・6 回・7 回注射終了毎に「反射」を検査後、生体固定を行い標本作製した。

5) 血液アチドージス

血液アチドージス惹起には前述の 1% 醋酸鉛蒸餾水溶液を動物体重毎 1.0cc の割に約 0.25cc 宛腹部皮下に連日 15 回注射した。そして注射量は 5 回目より約 0.4cc、10 回目からは約 0.6cc と漸次増量して可求的緩慢なアチドージス性変化を来す様にした。「反射」は注射 5 回終了時、15 回注射終了時及び注射中止後 1 週間に於て検査し、15 回注射終了時及び注射中止後 1 週間のものについて生体固定を行い標本作製した。

(原稿到着=昭和 29.9.13 日一急載)

H. YOKOI, M.D.: PATHOLOGY OF THE ENDO-LYMPHATIC SACK

内 淋 巴 嚢 の 病 理 (2)

名古屋大学医学部耳鼻咽喉科学教室 (主任 後藤修二教授)

研究員 横 井 秀 也
ヨコ イ ヒデ ヤ

第4章 実験成績

第1節 正常内淋巴嚢組織所見

正常内淋巴嚢を病的體器のそれと比較するため、先ず正常海狗 5 例に於て内淋巴嚢を組織的に検索し、以下の實驗の對照とした。

20 號: 上皮細胞は一般に重層の扁平上皮であるが硬腦膜間部は 1 層の立方上皮或は圓柱上皮である。粘膜下結合組織は鬆疎であり細胞浸潤は認めない。腔内には少數の褐色色素或は空胞を含んだ大單核圓形細胞を認める。而して之等の細胞は鐵反應陰

性である。

21 號：上皮細胞は内淋巴嚢上半部に於ては立方状又は圓柱状であり漸次内淋巴管に行くに従い骰子形となり遂に内淋巴管扁平上皮に移行して居る。粘膜下結合組織には細胞浸潤は認めない。腔内は比較的清楚であるが數箇の上皮の剝脱細胞を認め之は褐色色素を攝取して居る。

22 號：上皮細胞は重層の扁平上皮又は立方上皮であり内淋巴管に向うに従い扁平上皮細胞となり 1 層となる。粘膜下組織は鬆疎で細胞浸潤は認めない。腔内には褐色色素又は空胞を含んだ大單核圓形細胞を認め數箇の白血球を認めるが之等細胞は少數である。

24 號：上皮は嚢上半部は重層の扁平上皮或は圓柱上皮であり絨毛状を呈するのが他の例に比し著明である。粘膜下結合組織は鬆疎で細胞浸潤は見られない。腔内は比較的清楚で少數の剝脱上皮細胞或は大單核圓形細胞を認め之等は褐色色素或は空胞を含んで居る。

25 號：嚢上半部の圓柱上皮或は立方上皮は内淋巴管に向うに従い次第に扁平上皮に移行する。此の例は皺襞形成或は絨毛状を呈する突起は他に比較すると著明ではない。鬆疎粘膜下組織には細胞浸潤は見られない。腔内には僅かの 大單核圓形細胞を認める。

以上を小括すれば上皮は 1 層或は重層の扁平上皮又は 1 層の立方乃至圓柱或は骰子形上皮で覆われ、硬腦膜間に存在する部程上皮細胞は立方乃至圓柱状細胞であつて、前庭導水管外孔に近附くに従い其の高さを減じて骰子形となり内淋巴管に移行する部に行くに従い順次扁平となり遂には内淋巴管の扁平上皮に移行する。而して内淋巴嚢内腔へは絨毛状或は皺襞の如き感を呈する突起が認められ、此状態は硬腦膜間に存在する部程即ち嚢上半に於て殊に著明で、時には對側面と癒着するかの如き感を呈するもの (24 號) も認められた。

之等の突起も内淋巴管に行くに従い次第に少くなり且つ突起も低くなり隆起或は膨隆した状態となつて来る。其の爲か嚢内腔の廣さは嚢上半部より、むしろ前庭導水管外孔から内淋巴管に至る間が廣い様に見られる。然し内淋巴管に至れば再び狹小とな

る。上皮下結合組織は一般に嚢上半部に血管が多い様である。

嚢内腔には少數の大單核細胞或は剝脱上皮細胞を見る例が多いが比較的清楚な例 (21 號・24 號) も認められる。又數箇の白血球出現を見た例 (22 號) もある。

第 2 節 結核アレルギー動物

第 1 項 BCG 1 回接種群

i) 1 週 後

27 號：上皮並に上皮下結合組織は對照に比し著變を認めず腔内細胞は僅かであり白血球は出現は見ない。

29 號：上皮並に上皮下結合組織は對照に比し差異は認められない。腔内は清楚で浮游細胞は殆んど認めない。

30 號：上皮並に上皮下結合組織は對照に比し著變を認めず且つ腔内も清楚で白血球の出現は見ない。

ii) 2 週 後

34 號：上皮組織・上皮下結合組織には著變を認めない。腔内細胞も對照に比して差異なく白血球も認めない。

35 號：上皮並に上皮下結合組織には著變なく、腔内には僅かの 大單核細胞を見るのみで白血球の出現は認めない。

36 號：上皮並に上皮下結合組織は對照に比して變化なく腔内は褐色色素を認む大單核細胞を少數認める。

iii) 3 週 後

37 號：上皮組織及び皮下結合組織には著變はない。腔内も清楚で白血球の出現は見ない。

38 號：上皮並に上皮下結合組織は對照に比し著變は認められず且つ腔内浮游細胞も僅かの 大單核圓形細胞を認めるのみである。

40 號：上皮並に上皮下結合組織は對照と著變はない。腔内は僅かの 大單核細胞を認めるが白血球は見られない。

iv) 4 週 後

43 號：上皮並に上皮下結合組織には著變ない。腔内は清楚で白血球の出現はない。

44 號：上皮並に上皮下結合組織は對照と著しく差異はない。腔内も清楚で白血球は認めない。

46 號： 上皮並に上皮下結合組織は對照と著變はない。腔内も僅かの大單核圓形細胞を認める他白血球の出現は認めない。

第2項 BCG 再接種群

i) 1 週 後

50 號： 上皮組織並に上皮下結合組織は對照に比し變化は認められないが、腔内浮游細胞は對照に比し褐色色素を含んだ大單核細胞が少々増加して居る。

51 號： 50 號と同様に上皮並に結合組織には變化はなく腔内には多形核白血球が數箇見られ、且つ大單核細胞は對照より少々著明に増加して居る。

52 號： 上皮並に結合組織には變化なく腔内細胞は對照より少々増加して居る。

ii) 10 日 後

54 號： 上皮並に結合組織は變化なく、腔内細胞は増加著明ではないが、數箇の白血球が認められる。

57 號： 上皮並に結合組織は變化なく、腔内には大單核細胞が少々著明に増加して居る。

58 號： 上皮組織には著變がないが、結合組織は輕度の浮腫を認め僅か乍ら細胞浸潤を認め且つエオジン嗜好細胞が見られる。腔内には大單核細胞が對照に比し少々著明に増加して居る。

iii) 2 週 後

61 號： 上皮組織には絨毛狀を呈する部に輕度の浮腫を認める。結合組織には圓形細胞浸潤を見、又エオジン嗜好細胞の存在も見られる。腔内には大單核細胞が對照に比し著明に増加して居り、又多核白血球の出現を見る。

63 號： 上皮並に結合組織は對照と變化はないが、腔内大單核細胞は褐色色素を對照に比し多く攝取して居り且つ著明に増加して居る。

64 號： 上皮並に結合組織は變化が見られないが、腔内の褐色色素並に空胞を含んだ大單核細胞は對照より少々著明に増加し、且つ多核白血球の出現も認める。

iv) 3 週 後

67 號： 上皮並に結合組織に變化は認められない。腔内の大單核細胞は對照に比し著明に増加して居る。

68 號： 上皮は著變なく、結合組織には輕度の細胞浸潤を認める。腔内の大單核細胞は對照に比し少々

著明に増加して白血球の出現も認められる。

69 號： 上皮並に結合組織は著變が認められない。腔内の大單核細胞は對照に比し少々著明に増加して居り、白血球の存在も見られる。

表 1 結核アレルギー病理組織学所見

群別	検査日時	動物番号	上皮浮腫	上皮増生	上皮下結合組織浮腫	上皮下結合組織増生	血管拡張	色素細胞	細胞浸潤	エオジン嗜好細胞	腔内細胞	白血球	鉄反応
一回接種群	1週	50	—	—	—	—	—	—	—	—	+	—	—
	2週	51	—	—	—	—	—	—	—	—	++	+	—
	3週	52	—	—	—	—	—	—	—	—	+	—	—
	4週	54	—	—	—	—	—	—	—	—	+	+	—
再感作群	10日	57	—	—	—	—	—	—	—	—	++	—	—
		58	—	+	—	—	+	+	+	+	+	—	—
		61	+	—	—	—	+	+	+	+	++	+	—
		63	—	—	—	—	—	—	—	—	++	—	—
	2週	64	—	—	—	—	—	—	—	—	+	+	—
		67	—	—	—	—	—	—	—	—	++	—	—
		68	—	—	—	—	—	+	+	+	++	+	—
		69	—	—	—	—	—	—	—	—	++	+	—
	3週	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		72	—	—	—	—	—	—	—	—	++	+	—
		73	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4週	73	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1) 上 皮 + 輕度の浮腫又は増生を示す
 — 對照標本と著變ないものを示す
- 2) 上皮下結合組織 + 輕度の浮腫
 〃 増生
 〃 血管拡張
 〃 色素細胞の浮腫
 〃 細胞浸潤
 〃 エオジン嗜好細胞出現を示す
 ++ 中等度の向上変化を示す
 — 對照標本と著變ないものを示す
- 3) 腔内細胞 ++ 著明に増加
 ++ 中等度に増加
 + 輕度に増加又は鉄反応陽性
 — 細胞増加を認めないもの又は鉄反応陰性を示す
 (此の記載方法は以下同様)

v) 4 週 後

70 號：上皮並に結合織は對照と著變なく又腔内細胞數も對照と著變がない。

72 號：上皮に變化は認められない。結合織には輕度の細胞浸潤を見る。腔内の大單核細胞は對照に比し稍々増加して居り白血球も認められる。

73 號：上皮、結合織並に腔内の大單核細胞の状態は對照に比し著變がない。

第 3 項 本節に於ける小括

(表 1) に表わした如く BCG 1 回接種のものは對照に比し全く變化が認められない。BCG 2 回接種のものに於ては腔内細胞の増加が認められ、1 週・10 日・2 週と次第に増加し、以後 3 週・4 週と減少して遂に對照に近附いてくる。然し其の増減は週を追う毎に全例に認められるのではなくて個体の感受性の相違が考えられるのである。上皮並に結合織の變化は 2 週のものに於て 61 號で輕度の絨毛狀部の浮腫性變化が見られるのみである。結合織に於ては 58 號に於て輕度の浮腫性變化を見る他、圓形細胞浸潤を認めたものが 58 號・61 號・68 號・72 號であつた。そして 10 日後の 58 號並に 2 週後の 61 號に於てはエオジン嗜好細胞の出現を認めたのである。又出血の有無を見る爲に腔内細胞に就て行つた鐵反應は BCG 1 回接種並に 2 回接種のものゝ全例共陰性であつた。

第 3 節 卵白アレルギー動物

第 1 項 フライエル氏耳殻反射

卵白を再注射した海狗 15 頭のブ反射の變化は(表 2) に示す如くである。

即ち再注射直後のものに於ては各音共に機能障礙を來し、高音では全例が中等度のブ反射の低下を認めるが、中音では其の低下は全例共輕度であり、低音は中等度に低下するもの(80 號・82 號・86 號・87 號・90 號・91 號・92 號・96 號・97 號・102 號)が遙かに多いが、輕度に低下したもの(83 號・88 號・98 號・100 號・103 號)もあり區々である。再注射 3 日後のものは低音に於ては全例共再注射直後のものより恢復して居るが注射前の値には戻らない。高音に於ても低音と同様の傾向が全例に認められた。中音に於ては一般に恢復の傾向を示すものが多いが、再注射直後より僅か乍ら低下の認められた例(87 號・92 號・97

表 2 卵白アレルギーブ反射

動物 番号	検査 日	a ²	a ³	a ⁴	動物 番号	検査 日	a ²	a ³	a ⁴
80	実験前	10	10	10	96	実験前	10	10	10
	直後	23	17	23		直後	23	19	24
	3 日	13	16	15		3 日	12	17	13
	1 週	15	10	10		1 週	22	16	23
81	実験前	10	10	10	97	実験前	10	10	10
	直後	22	18	24		直後	24	17	29
	3 日	10	16	14		3 日	15	14	17
	1 週	10	10	10		1 週	10	10	10
83	実験前	19	16	25	98	実験前	20	18	23
	直後	14	16	18		直後	11	19	16
	3 日	10	10	10		3 日	18	16	24
	1 週	20	18	25		1 週	20	18	24
86	実験前	14	17	15	99	実験前	12	13	16
	直後	24	16	28		直後	10	10	10
	3 日	10	10	10		直後	18	19	24
	1 週	22	17	24		3 日	13	17	15
87	実験前	13	18	15	100	実験前	19	15	25
	直後	25	18	28		直後	27	16	28
	3 日	10	10	10		3 日	13	13	19
	1 週	10	10	10		1 週	10	10	10
88	実験前	14	16	24	101	実験前	10	10	10
	直後	10	16	16		直後	19	18	24
	3 日	10	16	16		3 日	13	17	15
	1 週	19	16	26		1 週	20	15	26
90	実験前	10	10	10	102	実験前	15	13	18
	直後	22	16	24		直後	10	11	12
	3 日	13	15	18		3 日	10	10	10
	1 週	22	14	29		直後	22	17	24
91	実験前	10	10	10	103	実験前	3	14	16
	直後	23	19	23		直後	19	16	22
	3 日	16	17	13		3 日	21	16	28
	1 週	23	16	25		1 週	15	13	19
92	実験前	24	16	29	104	実験前	12	11	13
	直後	10	10	10		直後	10	10	10
	3 日	21	18	25		直後	18	18	21
	1 週	12	19	17		3 日	12	18	15

號・102 號)があり、又再注射直後のものと同じ値を示す例(83 號・88 號・103 號)もある。1 週後では低音に於ては全例が 3 日後のものより低下して居るが其の程度は區々で、再注射直後より低下の輕度な例(96 號・97 號・102 號)がある。中音では 3 日後より低下が恢復した例が多く(90 號・91 號・96 號・97 號・98 號・103 號)、又再注射直後の値と同じもの(88 號)もあり、又 3 日後のものと同じ値のもの(87 號・88 號・92 號・102 號)もある。高音では著明にブ反射は低下して居るものが多いのであるが、2 例(102 號・103 號)は再注射直後のものと較べると稍々低下は輕度である。2 週後のブ反射は一般に 1 週後のものより更に低下するが中音では其の低下は高音或は低音に比すと輕度である。3 週後のブ反射は全例に於て 2 週後より著明に恢復して居る。4 週後は 3 週後のものより恢復は更に著明で實驗前の値に近似して居る。之れは殊に低音程明らかである。

第 2 項 病理組織所見

(i) 感作後 3 日目

80 號：上皮組織には一般に著變を認めないが、

絨毛状を呈する部は僅かに上皮細胞の浮腫状腫脹を見る。上皮下結合織は一般に浮腫状を呈し所々に細胞浸潤を認める。腔内は大單核細胞並に多核白血球の増加を認める。之等の細胞は脂肪並に褐色色素を貪食して居るのが明らかに認められる。

81 號： 上皮組織は著明な絨毛状を呈する部に軽度の浮腫を認める。上皮下結合織にも軽度の浮腫が見られ圓形細胞浸潤を認める。腔内には褐色色素・空胞・脂肪を含んだ大單核細胞が對照に比し軽度増加し、多形核白血球も認められる。

82 號： 上皮並に上皮下結合織の浮腫は殆んど認めないが、上皮下結合織には圓形細胞浸潤を認める。腔内には脂肪及び褐色色素を含んだ大單核細胞が對照に比し少々増加し、多形核白血球も認められる。

(ii) 1 週 後

86 號： 上皮組織には著變を認めない。上皮下結合織に圓形細胞浸潤を認めるが浮腫状を呈する部は認められない。腔内の大單核細胞並びに白血球は3日目のものより明らかに増加して居る。

87 號： 上皮組織及び上皮下結合織は對照に比し變化は認められないが、腔内の大單核細胞は明らかに對照より増加して居り、多形核白血球も認められる。

88 號： 絨毛状をなす上皮突出部には浮腫を呈して居るのが軽度乍ら認められ、上皮下結合織にも同様に浮腫を認め圓形細胞浸潤も認められる。腔内には大單核細胞及び多核白血球が認められ、これらは褐色色素或は脂肪を含んで居るが其の増加は軽度である。

(iii) 2 週 後

90 號： 上皮及び上皮下結合織には著變はなく結合織に僅かの圓形細胞浸潤を見る。腔内の大單核圓形細胞は對照より僅かに増加し白血球の混在を見る。

91 號： 絨毛状を呈する上皮には軽度の浮腫を認め上皮下結合織にも同様の變化を見る。そして圓形細胞浸潤を認める。腔内の大單核細胞は少々著明に増加し白血球の混在も明らかである。

92 號： 上皮組織は對照に比して著變は認められない。上皮下結合織には僅かの圓形細胞浸潤を見る

のみである。腔内の大單核細胞及び白血球の増加は著明でない。

(iv) 3 週 後

96 號： 上皮組織の絨毛状を呈する部は軽度の浮腫状を呈し上皮下結合織も同様の變化が認められ且つ圓形細胞浸潤を認めて居る。又エオジン嗜好細胞の出現を見る。腔内の褐色色素及び脂肪を攝取した大單核細胞は對照に比し著明に増加して居り多形核白血球の出現も多量である。

97 號： 上皮の絨毛状突出部に於て浮腫が軽度に認められ、上皮下結合織に於ては浮腫と共に圓形細胞浸潤及びエオジン嗜好細胞の出現が認められる。腔内の大單核細胞は對照に比し明らかに増加して居り、多核白血球も認めらる。

98 號： 上皮組織は絨毛状突出部に軽度の浮腫性變化を認め、上皮下結合織には圓形細胞浸潤の他にエオジン嗜好性細胞の出現が認められる。腔内の褐色色素或は脂肪を含んだ大單核細胞並びに多形核白血球は著明に増加して居る。

(v) 4 週 後

100 號： 上皮の絨毛状突出部に軽度の浮腫を認める。上皮下結合織も同様の變化を認め且つ圓形細胞浸潤も認められ又エオジン嗜好性細胞の出現して居るのも見られる。又褐色色素が上皮下結合織の基底部附近に沈着して居るのが認められる。腔内の大單核細胞並びに白血球の増加は3週後のものより減少して居る。

102 號： 上皮組織には著變は認められないが上皮下結合織には軽度乍ら浮腫性變化を認め且つ軽度の圓形細胞浸潤が認められる。又結合織内には所々褐色色素の浮游して居るのも見られる。腔内の大單核細胞の増加は3週のものより著明に減少して居るが對照に比較すれば軽度乍ら増加して居る。

103 號： 上皮組織には著變は認められない。上皮下結合織に見る圓形細胞浸潤も極く軽度である。腔内の大單核細胞並びに多核白血球は3週後のものより減少して居り、之等細胞の破壊されて居るのも見られる。

第3項 本節に於ける小括

(A) フライエル氏耳鼓反射

表3に示す様に a^3 , a^4 では略々平行して再注射直

表 3 卵白アレルギー再注射群ア反射

後には中等度の低下を示すが3日後では著明に恢復する。然し再注射前と比較すると少々低下して居る。次で1週・2週と低下して2週は最も低下する。3週に至り著明に恢復し4週では再注射前より僅かに低下して居るのみである。a²は再注射3日目迄漸次ア反射は低下して以後1週・2週と著明な低下を示さず経過して3週・4週とア反射は徐々に恢復して行く。

(B) 病理組織學所見

3日目に生体固定を行つたものは一般に上皮組織に著變は認められず、變化を認めるのは絨毛状突出部である。上皮下結合織には一般に僅かの浮腫狀變化を認めるが圓形細胞浸潤は比較的少ない。腔内細胞は各例共對照より少々増加して且つ多核白血球の出現を見る。1週後のものは上皮組織は88號に於て絨毛状部の浮腫性變化を認めて居る。上皮下結合織には圓形細胞浸潤並びに浮腫狀變化を見る例(86號・88號)が多い。腔内の大單核細胞及び多核白血球の出現は3日目のものより増加して居る。2週後のものは絨毛状突出部に軽度の浮腫を認める例(91號)もあるが一般に變化はない。上皮下結合織にも浮腫を認めない例(90號・92號)が多く細胞浸潤も軽度である。腔内の大單核細胞及び多核白血球の増加は著明でなく對照より軽度に増加して居るのみで

ある。3週後のものは上皮の絨毛状突出部に軽度の浮腫性變化を全例に認め、上皮下結合織は圓形細胞浸潤と共にエオジン嗜好細胞の出現が全例に認められた。腔内の大單核細胞並びに多核白血球は著明に増加して居る。4週後のものは一般に上皮の浮腫性變化は3週後のものに比し軽度で100號に認めたのみである。又上皮下結合織の浮腫性變化は100號・102號に認めたが圓形細胞浸潤は3週後のものより軽度であつた。然し100號ではエオジン嗜好細胞を認めた。又結合織内には褐色色素の沈着して居るのを2例(100號・102號)に認めた。腔内の大單核細胞及び多核白血球は3週後のものに比し、何れも減少して居り、1週後のものと大差のない例(102號)も認められ、103號では腔内細胞が破壊されて居るのも認められた。

表 4 卵白アレルギー病理組織學所見

検査動物	動物番号	上 皮	上 皮 下 結 合 織					腔内細胞	
			浮腫	増生	血管拡張	色素細胞浸潤	円形細胞浸潤	大単核細胞	白血球反
再 日	80	—	—	—	—	—	—	—	—
	81	+	—	—	—	—	—	—	—
	82	—	—	—	—	—	—	—	—
感 週	86	—	—	—	—	—	—	—	—
	87	—	—	—	—	—	—	—	—
	88	+	—	—	—	—	—	—	—
作 週	90	—	—	—	—	—	—	—	—
	91	+	—	—	—	—	—	—	—
	92	—	—	—	—	—	—	—	—
群 週	96	+	—	—	—	—	—	—	—
	97	+	—	—	—	—	—	—	—
	98	+	—	—	—	—	—	—	—
4 週	100	+	—	—	—	—	—	—	—
	102	—	—	—	—	—	—	—	—
	103	—	—	—	—	—	—	—	—

(原稿到着=昭和29.9.13日—急載)